

京田辺市草内・飯岡地区における石造物調査

京都府立大学文学部考古学研究室

はじめに

地域に残る石造物は、それぞれの地域固有の歴史を伝える貴重な資料である。とりわけ、神社には時代を超えて石造物が集積し、また破壊のおそれのある資料にとっての避難所としての役割を果たしている。ただし、神社にある石造物部の保全が確実なわけではなく、災害による倒壊など、不慮の事態にも備える必要がある。こうした観点から、石造物の現状を記録し、万一の被災に対しても復旧可能な資料を残すことが重要な課題となっている。今回、京田辺市域において、市史編さんを機会として、悉皆的に神社の石造物を記録し、資料化することを企画した。以下に今年度の調査成果についてまとめておきたい。

1. 調査の経緯

京都府立大学は、昨年度より京田辺市と連携して京田辺市史編さん事業にあたっている。考古・古代部会では、市内の考古資料の調査とともに、神社石造物の悉皆調査もおこなうこととした。今年度は草内地区と飯岡地区を対象として、調査を実施した（図1）。両地区には同名

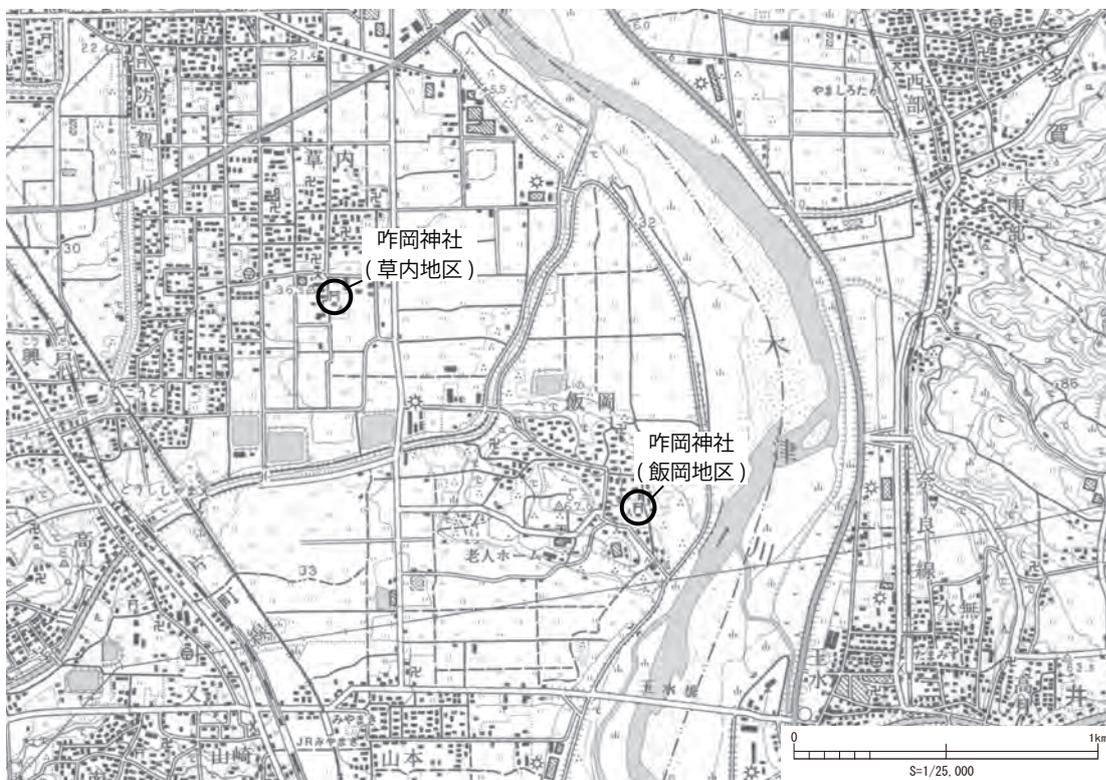


図1 昨岡神社（飯岡地区・草内地区）の位置

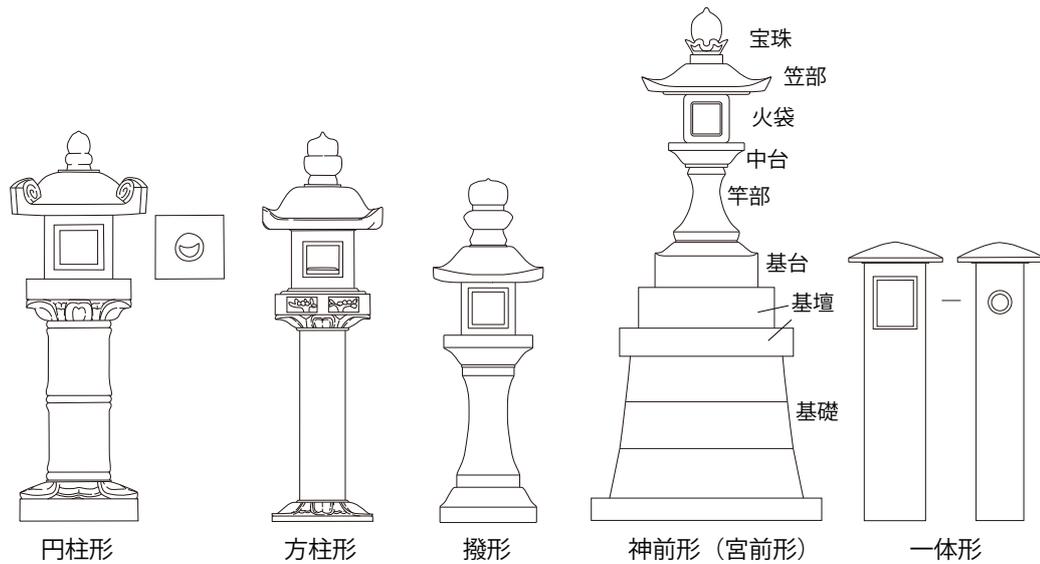


図2 近世石燈籠の分類

の昨岡神社があり、産土神として地元の崇敬を集めている。調査は、石造物の配置を把握するとともに、おおむね昭和戦前までの石造物をとりあげ、写真撮影、実測図作成、および紀年銘の釈読をおこなった。今回は、平成30年8月20日、21日の両日に実施し、通常の実測に加えて、写真測量による実測、記録化をおこなった。その結果、手実測の無理な鳥居についても図面の作成が可能になっている。

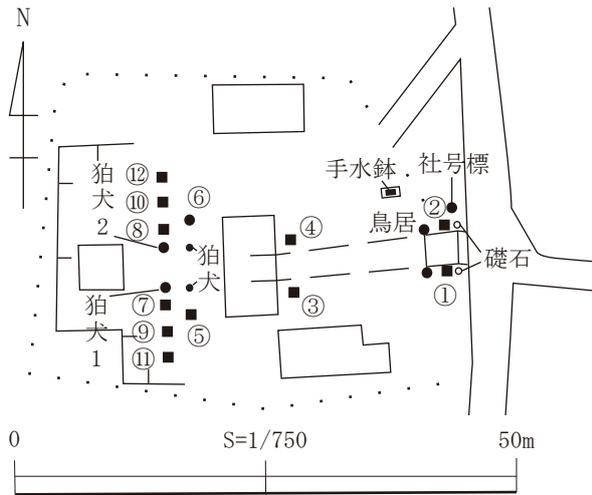
主たる石造物は灯籠であるが、その分類および部分名称については図2に示した通りである。また、石造物の実測図はすべて縮尺1/40に統一した。銘文釈文は各部ごとに記載したが、竿部は部位の記載を省略し、また正面の方向についてはかっこ内に記している。（菱田・諫早）
調査参加者：菱田哲郎・諫早直人（京都府立大学文学部教員）、稲本悠一・陰地祐輝・田口裕貴（京都府立大学大学院）、鈴木康太・小泉明大（京都府立大学文学部）

2. 飯岡地区昨岡神社

飯岡地区の昨岡神社は京田辺市飯岡東原に位置する。付近には飯岡古墳群・飯岡の渡し跡・山本駅跡が存在し、古来から交通の要衝として重要な地点であった。

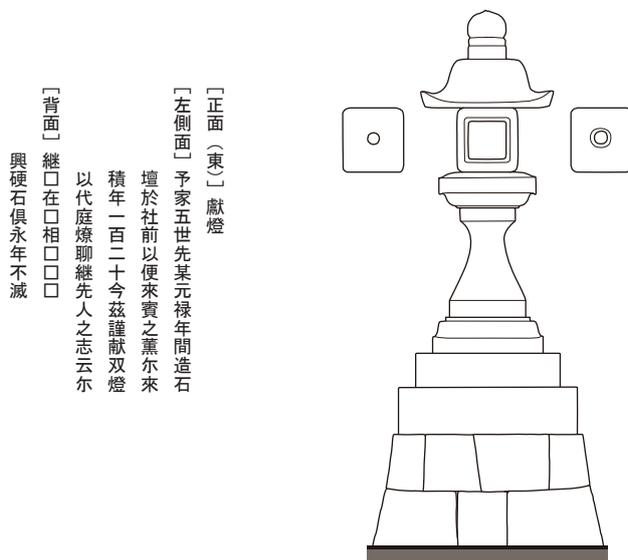
明治6（1873）年の『村誌』によれば、当神社の祭神は宇賀魂神で、祭日は3月11日である。また、明治16（1883）年の『神社明細帳』によれば、明治6年に村社に、明治10年に延喜式内昨岡神社となったとされる。同書では「当社ハ延喜式内ノ社ナルヲ中古誤テ天満宮ト称ス」と、神社の沿革についても述べられている。加えて、明治41（1908）年の『山城国綴喜郡誌』では、当社の由緒の一説として、初めは飯岡の北境宮ヶ森に鎮座していたが、永享年間の洪水の被害によって現在の場所に移されたとしている。いずれも当社の変遷を考える上で重要な記述であろう。

後述する草内昨岡神社との関係については、明治9（1876）年作成の『特選神名蝶』が引く『式社考徴』（成立期不明）に「飯岡邑にますを本社とすべし」とあり、飯岡地区の昨岡神社が本



境内の様子

図3 飯岡咋岡神社(1)



〔正面(東)〕獻燈
 〔左側面〕予家五世先某元禄年間造石
 壇於社前以便來賓之薰尔來
 積年一百二十今茲謹獻双燈
 以代庭燎聊繼先人之志云尔
 〔背面〕繼口在口相口口口
 與硬石俱永年不滅



①

〔正面(東)〕獻燈
 〔右側面〕文政三年庚辰春三日吉日
 願主 河瀬善兵衛止信
 男 七郎兵衛止孝
 〔背面〕村中安全
 家連長久



図4 飯岡咋岡神社(2) ②(①と同形)



〔正面（東）〕御神燈
 〔背面〕文政十三季庚寅夏六月吉日
 願主大阪加嶋屋藤八孝教建

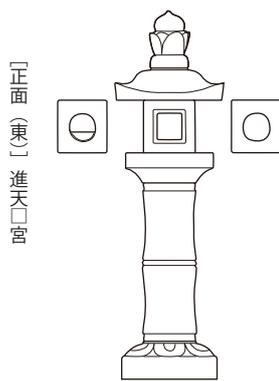


〔正面（東）〕御神燈
 〔背面〕文政十三季庚寅夏六月吉日
 願主大阪加嶋屋藤八孝教建

③



④(③と同形)

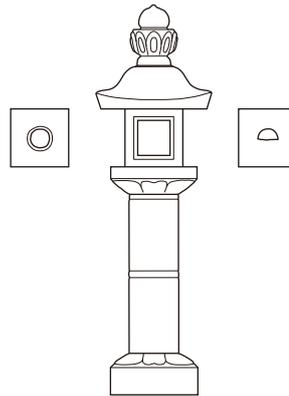


〔正面（東）〕進天宮

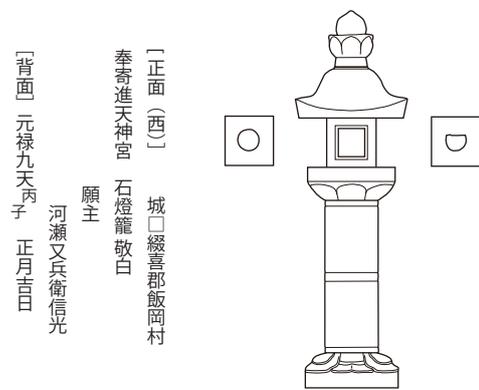


⑤

〔正面（東）〕□□元年
 奉寄進天神宮 寶前
 九月吉日
 □□



⑥



〔正面（西）〕城□綴喜郡飯岡村
 奉寄進天神宮 石燈籠 敬白
 願主 河瀬又兵衛信光
 〔背面〕元禄九天丙子 正月吉日



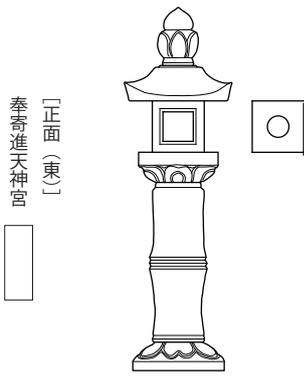
⑦

〔正面（東）〕城□綴喜郡飯岡村
 奉寄進天神宮 石燈籠
 願主 河瀬又兵衛信光
 〔背面〕元禄九天丙子 正月吉日



⑧(⑦と同形)

図 5 飯岡咋岡神社 (3)



〔正面(東)〕
奉寄進天神宮



⑨

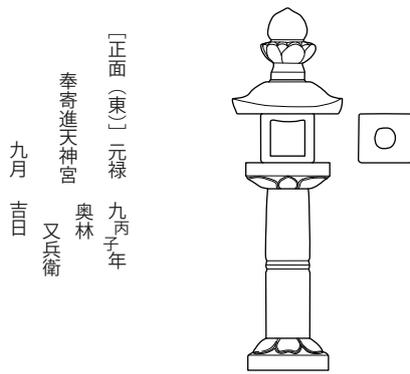


⑩(⑨と同形)

〔正面(西)〕元禄
奉寄進天神宮
九月
奥林



⑪(⑫と同形)



〔正面(東)〕元禄
奉寄進天神宮
九月
吉日
奥林
又兵衛

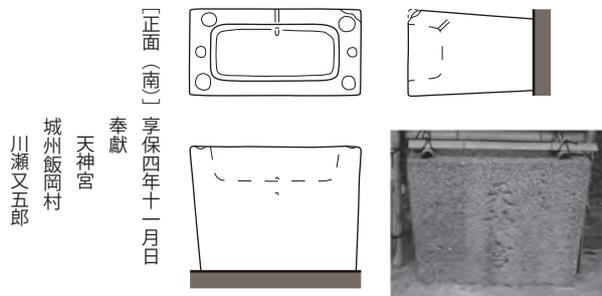


⑫

〔正面(東)〕式内咋岡神社
〔右側面〕明治十年六月建之 産子中
〔左側面〕綴喜郡飯岡邑字東原鎮座
〔背面〕□山書



社号標



〔正面(南)〕享保四年十一月日
奉獻
天神宮
城州飯岡村
川瀬又五郎

〔左柱〕享保庚子之歳春正月



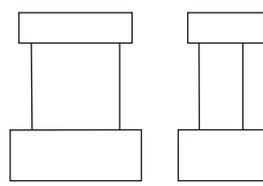
鳥居

手水鉢



〔正面(東)〕獻
〔右側面〕出嶋繁造
〔背面〕大正三年二月

狛犬 1



狛犬台座

〔正面(東)〕奉
〔左側面〕出嶋兵太郎
〔背面〕大正三年二月



狛犬 2

図 6 飯岡咋岡神社 (4)

社とされていたようである。

境内に現存する石造物は、灯籠が12基、手水鉢が1基、本殿前に狛犬が2対、境内入口に鳥居が1基と社号標が1基である（図3）。石灯籠の形状は神前形（①～④）と円柱形（⑤～⑫）に分類され、10基が対になる。本殿脇にある石灯籠（⑦・⑧、⑫）が最も古い元禄9（1696）年の紀年銘をもち、文政3（1820）年（②）、文政13（1830）年（③・④）の紀年銘をもつものもある。①は②と対をなし、形態が同一であることから文政3年のものであると考えられる。⑥は宝珠や基台の装飾などの細部は異なるものの、⑦・⑧の形態に類似することから江戸時代中期頃のものと考えられる。⑤・⑨・⑩も紀年銘を確認できないが、竿部が円柱形で各部の平面形態が四角形をとることから古い印象を受け、江戸時代中期頃の所産であると推測する。他の石造物では、境内入口にある社号標の前面に「式内咋岡神社」、背面に「明治十年六月建之」とあり、明治10年に式内社と改めた際に建てられたものであることがわかる。また、手水鉢は享保4（1719）年、鳥居も享保庚子、すなわち享保5（1720）年の紀年銘が、狛犬1・2は大正3（1914）年の紀年銘が認められる。

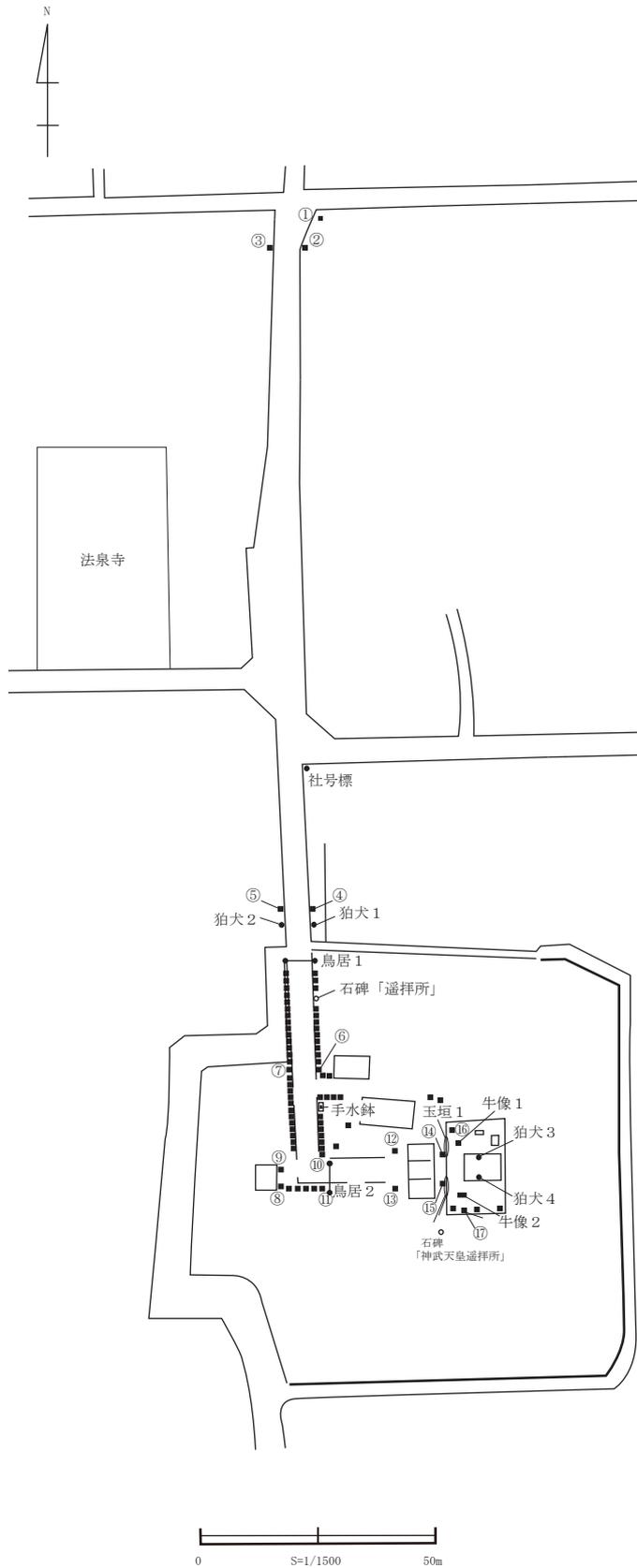
興味深いのは、⑥～⑫の石灯籠の竿部に「奉寄進天神宮」、手水鉢に「奉獻天神宮」という銘文が見られることである。石灯籠に記された紀年銘と合わせて、元禄9年から享保4年の間は確実に天神宮と認識されていたことがわかり、『神社明細帳』の天満宮（天神宮）という記述を裏づけるものと評価できよう。また、拝殿前の石灯籠（③・④）に「願主大阪加嶋屋藤八孝教建」とあり、村外の人物による寄進があったことも興味深い点である。

以上に述べてきたように、『村史』や『神社明細帳』の記述を石造物の銘文から裏づけ、社号・社格の変化に関する新たな知見をえることが出来たのは大きな調査成果であるといえる。

（稲本悠一）

3. 草内咋岡神社

草内地区の咋岡神社は京田辺市草内宮ノ後に位置する。『村誌』には「天神社」として記載され、伝承として「或云旧時田邊村ト飯岡村咋岡神社ノ祭祀ニ預リ土地神トセシカ正治以後各分シテ別社ヲ建立ス当社是ナリト云」と記されており、祭日は9月10日としている。また、『五畿内志』の『山城志』（1734年）にも「咋岡神社整鞞○在草内村隣于咋岡、今稱天神」とあり、この神社が咋岡神社に比定されており、当時は天神社を称していることがわかる。明治16年の『神社明細帳』の作成段階でも天神社として記載され、祭神を菅原道真としていたが、明治26年に祭神訂正が申請され、同年10月19日に許可が下り、社号を咋岡神社に、祭神を稲倉魂神に改めている。この社号変更については『山城綴喜郡誌』に詳しく、明治26年に発見された旧記により源流が咋岡神社に求められることが確かめられ、現在の社号に改めると同時に祭神を変更し、菅原道真は配神とされたという。さらに『神社明細帳』には明治16年時の境内図が記録されており、現存の本殿と拝殿以外に7つの社と3棟の氏子詰所が存在したことがわかるが、現在は若宮神社と稲荷神社の2社と社務所1棟が残るのみとなっている。また、『山城名跡巡行志』には「宮寺曰法泉寺、寺前在十三重石塔」との記述があり、咋岡神社の北に位置する法泉寺が咋岡神社の神宮寺であったことが記されている。



〔正面（北）〕 咋岡神社
〔背面〕 昭和五十一年建之草内氏子中



社号標



境内の様子



本殿



拝殿

図7 草内咋岡神社 (1)

〔正面〕 納奉
〔背面〕 大正三年九月建之



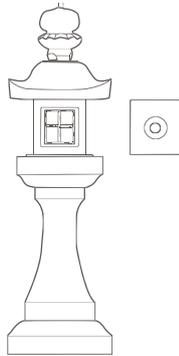
鳥居 1

〔正面〕 遥拝所
〔背面〕 御即位紀念
大正三年四月月建之
草内村青年会
第一支部



石碑「遥拝所」

〔正面（北）〕 奉寄進愛宕山
〔右側面〕 享保四巳亥年



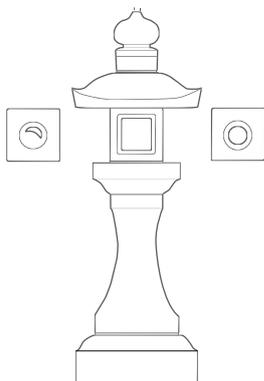
①

〔正面（北）〕 奉獻天満宮
〔右側面〕 常夜燈
〔左側面〕 寛延三庚午年二月廿五日
〔背面〕 本願山岡氏



②(③と同形、火袋のみ異なる)

〔正面（北）〕 奉獻天満宮
〔右側面〕 常夜燈
〔左側面〕 寛延三庚午年二月廿五日
〔背面〕 本願山岡氏



〔正面（北）〕 獻燈
〔背面〕 大正三年十月建之
願主 助伊西奥

③



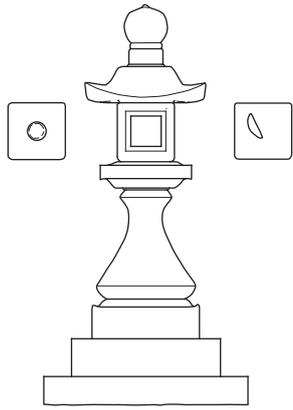
④

⑤(④と同形)

図8 草内咋岡神社(2)

〔背面〕天保九戌年十一月 石工 甚兵衛

〔正面〔北〕〕天満宮
〔基台〕村東
〔基壇〕中子氏



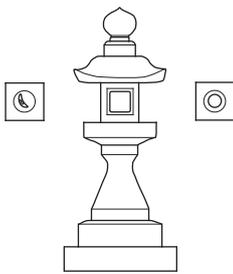
⑥

〔背面〕天保九戌年十一月

〔正面〔北〕〕天満宮
〔基台〕村東
〔基壇〕中子氏



⑦(⑥と同形)



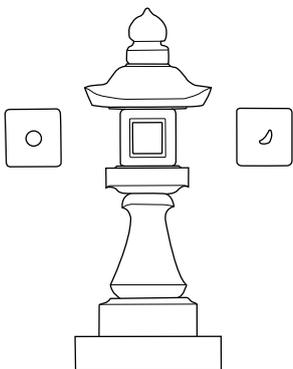
⑧



⑨(⑧と同形)

〔背面〕願主 谷村氏良明

〔正面〔西〕〕永代常夜燈
〔右側面〕安永八乙亥正月吉日



⑩



〔背面〕願主 谷村氏良明

〔正面〔西〕〕永代常夜燈
〔左側面〕安永八乙亥正月吉日



⑪(⑩と同形、火袋のみ異なる)

図9 草内咋岡神社 (3)

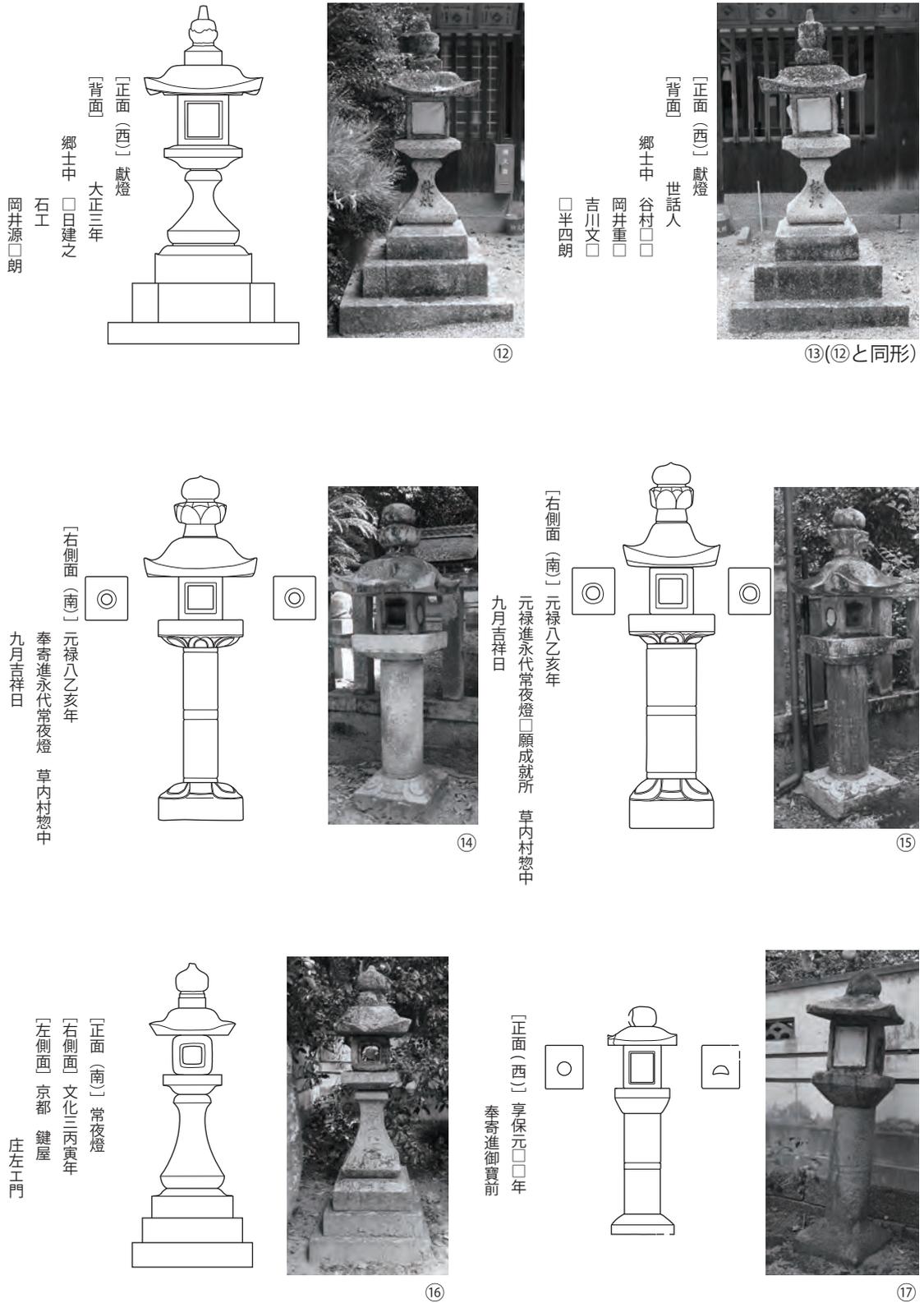
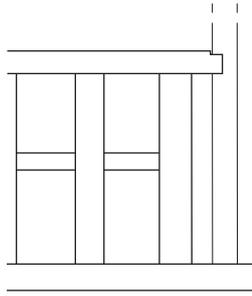


図10 草内咋岡神社(4)

奉寄進兩村氏子中
文政十三年寅年十一月吉日



〔背面〕伊賀波野田村石工甚兵衛
奉寄進兩村氏子中

玉垣1(親柱・左) 玉垣2(親柱・右)(銘文)

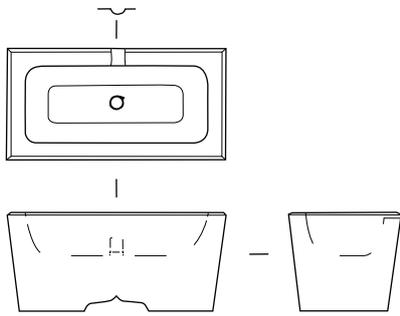


牛像①



牛像②

昭和二年月日建之
奉願主
奥西□次郎
□波つ
山岡うの
奥西かの
納



〔右側面〕天保九戊歲
九月吉辰
艸内
氏子中
〔正面〕奉進水清



手水鉢



狛犬①



狛犬②



狛犬③

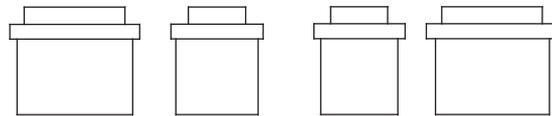


狛犬④

〔正面〕神武天皇遙拜所
〔背面〕昭和十九年一月建之



石碑「神武天皇遙拜所」



〔左側面〕同年十一月吉日
〔正面〕進寄□

〔右側面〕艸内
氏子中

〔左側面〕艸内
氏子中
〔正面〕進寄□

〔右側面〕天保九年
戌十一月吉日

狛犬③・④ 台座

図11 草内咋岡神社 (5)

石造物は境内とその周辺のもの他に、やや離れた位置に残されている石灯籠が含まれる。境内の約150m北には3基の石灯籠(①・②・③)が現存しており、対になる2基(②・③)は「奉献天満宮」の銘がある。この2基が境内に続く直線的な道を挟んで現存し、加えて法泉寺のさらに北方に位置すること、さらには上述の『山名城跡巡行志』における記述から、昨岡神社の参道はこの2基の石灯籠の位置まで伸びるものと考えられる。また、社号標は鳥居1から約9m北に位置する。

境内は、北に向く鳥居1をくぐった後南北方向の参道が途中でL字状に曲がり、西向きの本殿へとつながる。石灯籠は境内北側のものを含めて79基現存するが、これらのうち62基は平成の寄進によるものであり、近年における境内の整備状況がうかがえる。調査対象とした近世から近代にかけての石灯籠はそれぞれ、元禄8(1695)年(⑭・⑮)、享保元(1716)年(⑰)、享保4(1719)年(①)、寛延3(1750)年(②・③)、安永8(1779)年(⑩・⑪)、文化3(1806)年(⑯)、天保9(1838)年(⑥・⑦)、大正3(1914)年(④・⑤・⑫)の紀年銘をもつ。竿部の形状から、円柱形(⑭・⑮)、撥形(①・②・③)、神前形(④～⑬、⑯)に分類できる。加えて、鳥居1の前と本殿の前に狛犬が計2対と参道に手水鉢が1基、本殿の周囲には牛像2基と玉垣がみられるほか、「遥拝所」の銘文がある石碑を確認した。これらの石造物については、本殿前の狛犬3・4の台座部分と手水鉢に天保9(1838)年、玉垣に文政13(1830)年、鳥居1とその付近の石碑に大正3(1914)年、本殿北の牛像2の台座部分に昭和2(1927)年、本殿付近の石碑に昭和19(1944)年の紀年銘がそれぞれ認められた。

本調査により、「奉献天満宮」の銘をもつ石灯籠から、社号変更以前の様相が一部明らかになった。また、月日の一致はみられないが、天保9(1838)年と大正3(1914)年に複数の石造物が建てられていることも興味深い。(田口裕貴)

おわりに

従来の文献に基づく研究と合わせて、境内の石造物の調査から社号・社格の変更や境内整備の実態などについての新たな知見をえることができた。石造物は多くの情報を内包しており、考古学的な調査からその形態や銘文に関する情報を引き出すことは、神社の歴史、ひいては地域史を考える上でも極めて重要な意味をもつことを改めて示せたと考えている。今後も同市内における石造物の調査を継続する予定であり、より多角的な視点から、京田辺市の神社の歴史ならびに地域史の検討を行っていきたい。

<参考文献>

西山克 1979 「昨岡神社」『式内社調査報告』第一巻 京・畿内 1, 皇學館大學出版部

<図版出典>

図1 西山 1979 に加筆